

## 実践事例

学校名 \_\_\_\_\_

## 1 実践の概要

## (1) 取組みのねらい

いじめはどの学級、どの学校でも起こり得るということを、すべての教師が共通に認識し、いじめ問題に対して学校として組織的な対応ができるようにするとともに、生徒一人一人が抱えている人間関係を多面的に捉え、個に応じた支援ができるような体制づくりを行う。

## (2) 取組みの内容

## ① 「学校生活ノート」の活用

全校生徒が毎日家庭で「学校生活ノート」に一日の出来事や悩み、考え等を自由に記入し、翌日の朝、担任の先生に提出する。担任がそれを読み、コメントを書くことにより、子どもとのよりよい人間関係を構築していくとともに、子どもの心の動きやサインを見つけ早期対応を図る。

## ② 「朝読書」の奨励

毎朝10分間の「朝読書」を行うことにより、落ち着いた雰囲気の中で授業に望ませるとともに、健康観察を通して子ども達の変化やサインを見つける手だてとする。

## ③ 「生活意識アンケート」の実施

定期(年2回)だけではなく必要に応じて「生活意識アンケート」を実施し、生徒指導上の問題や生徒の悩み、いじめ問題等について積極的に情報収集を図る。

## 2 実践の成果(態度・心情面やいじめの解決など)

## ① 「学校生活ノート」の活用

子どもの心の動きやサインを早期に見つけたり、他の子どもについての情報を得て、早期に対応することができた。また、「学校生活ノート」から担任が得た情報や子ども達の変化を学年会や生徒指導委員会等で共有化を図り、組織としての対応策を講じることができた。

## ② 「朝読書」の奨励

落ち着いた学校の雰囲気づくりに役立っている。また、朝の健康観察を通して子ども達の家庭での様子や心の変化を早期に発見できている。

## ③ 「生活意識アンケート」の実施

学校生活や学習について、生徒が抱えている悩みを知ったり、いじめにつながりかねない問題等について早期に把握することができている。

## 3 取組みの評価(対応についての評価)

## ① 指導体制の見直しと教師の意識改革

教師間での情報の共有化、管理職への情報の伝達経路、指導体制の問題点等、校内の指導体制を見直しと改善を図り、全教職員に正しい情報が伝わり、具体的な対応策を講じることができる指導体制を構築できた。

また、チームで対応していくということを教師一人一人が認識することにより、学校のすべての教師がすべての子どもの問題に関わっていくという意識を持つようになってきた。

## ② 今後の課題

いじめやその他生徒指導上の問題に対しての、学校の対応に期待を持たない子どもや保護者も多いと思われるが、学校の指導方針をきちんと示し、現実的に解決が図られることで学校への信頼が向上した事例もある。今後も学校の指導方針や考え方を子どもや保護者に示していくとともに、子ども達や保護者の声を学校教育に取り入れていく方策を講じる必要がある。

## 4 実践に関する資料(学習カード等)

※特になし